

東北教区報 2021年8月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
「マグロの赤字」

司祭 テモテ 遠 藤 洋 介

そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。(ヨハネ19:29-30)

「損して得取れ」ということわざがあります。一時的には損をしても、将来的に大きな利益となつて返ってくるように考えなさい、という意味です。日本中、どこのお寿司屋さんに入っても、必ず置いてあるネタはマグロの赤身です。ネタ切れでない限り、食べられないということは無いでしょう。実際に、他のネタがない場合は仕方ないと受け入れられても、マグロのないお寿司屋さんはあまり想像できないものです。しかし、ど

のお寿司屋さんでも原価率を考えた場合、売れば売れるほど赤字になることが多いのもこのマグロであると言われるています。お店の顔でもあるマグロはケチな仕入れなどできず、また、多くのお客さん



が食べることから、値段も上げにくいのです。結果、お寿司屋さんは赤字のマグロを出し続け、他のネタで利益を生み出していくのです。

イエスさまの生き方を見ますと、決して器用な生き方をされていないことがわかります。もつとわがままに、損得

を意識されて、ご自分のことを優先されたらと思うのですが、むしろ、周りからの批判や迫害を一手に引き受け、挙句の果てには、十字架の死をすべての人々のために担われ、一番大きな「命」をも、失われます。しかし、その損失ばかりの地上での歩みには、神様の壮大なご計画である人類の救済という豊かで大きな恵みが結び付けられています。

教会にとって、損とはなんでしょうか。教会の財源が減ってしまうようなことを言うのでしょうか。得とはなんでしょうか。教会に人があふれるような事態を言うのでしょうか。損とか得などとそんな世俗的な考えはキリスト教の信仰にはそもそもふさわしくないとお考えになられる方も少なくはないと思います。しかし、どこの教会も、教区も現実的な問題として、こうしたことは、無視できない状況にあることは確かです。ただ、損なことにして得なことにして、大切なのは、それが神様の御心になつていくかどうかということなので

す。もう少し具体的に言いますと、目先の得に捉われて、10年、20年先の教会の維持を見られていますか、ということとです。

現在、東北教区は十和田湖畔の国立公園にあるヴァイアル山荘の建て替えという大きなプロジェクトを進めています。今、この財政難で先行きの見えない大変な時期に、これは、傍目から見ると、無理をしているとしか思えないようなプロジェクトです。しかし、東北教区は、一見赤字を抱えそうなこのプロジェクトに豊かな、恵みと希望であふれている未来を見えています。

時間と力と知恵を注ぎ、常に神様の御心を求め、100年以上も紡がれてきたこの歴史的財産の中に、神様の栄光が現わされることを信じて疑わないのです。

苦しい今のこの時だからこそ悲観せず、前向きに将来に目を向け、苦しい逆境の中で10年先とは言わず、100年先のための宣教の種を今、一緒に蒔いてまいりたいと思います。

(八戸聖ルカ教会副牧師)

教区宣教130周年記念プログラム

「交換説教」が行われます

「東北教区宣教方針（ミッシン・ステートメント）」が第102（定期）教区会（2019年11月開催）において決議承認され、今後教区のすべての活動がこの宣教方針に基づいて進められていくことを皆で共有した直後にコロナ禍となりました。結果、

宣教方針の中の「教会相互の交わり・協働関係を深めます」にあるように、近隣教会の協働のきっかけとなるような合同礼拝の実施や語り合う機会を設けるなど、交わりを深めていきたいという協働グループの願いの実践も、現状では難しい状況にあります。

しかし、神様の宣教の御業は決して止まることなく今もこれからも神の国の完成まで続き、私たち一人ひとり祝福されていることを信じ、歩んで行くことに交わりはあります。東北教区宣教130周年を迎えたこの時にあってもそれは同じです。折しも日本聖公会が宣教協働区制という新たな道へ歩み出した今、今後の近隣教区との協働を視野に入れた宣教活動の展開のためにも、まずは教区の聖職・信徒が一九となることが求め

られています。そのために教区内の聖職・信徒が顔の見える関係を築いていく一助になればと願う「交換説教」を行うことといたしました。これにより、各教会相互の関係作りのきっかけとなることも願っています。どうぞこの趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

宣教主事

司祭 ステパノ 越山 哲也
協働グループ・リーダー
司祭 ヤコブ 林 国秀

交換説教 日程・説教者

9月5日(日)

青森聖アンデレ教会	涌井 康福 司祭
秋田聖救主教会	長谷川 清純 司祭
八戸聖ルカ教会	李 賛熙 司祭
盛岡聖公会	加藤 博道 司祭
仙台聖公会	越山 哲也 司祭
仙台聖フランシス教会	八木 正言 司祭
福島聖ステパノ教会	林 国秀 司祭
郡山聖ペテロ聖パウロ教会	渡部 拓 司祭
小名浜聖テモテ教会	遠藤 洋介 司祭

9月12日(日)

聖ペテロ伝道所	渡部 拓 司祭
米沢聖ヨハネ教会	越山 健蔵 司祭

9月19日(日)

若松諸聖徒教会	松本 正俊 司祭
---------	----------

9月26日(日)

能代キリスト教会	加藤 博道 主教
----------	----------

9月29日(水)

釜石神愛教会	遠藤 洋介 司祭
--------	----------

10月2日(土)

室根聖ナタナエル教会	越山 哲也 司祭
------------	----------

10月3日(日)

山形聖ペテロ教会	長谷川 清純 司祭
----------	-----------

10月16日(土)

鶴岡聖公会	李 賛熙 司祭
西の平聖パウロミッション	林 国秀 司祭

10月23日(土)

磯山聖ヨハネ教会	涌井 康福 司祭
----------	----------

10月24日(日)

新庄聖マルコ教会	八木 正言 司祭
聖ペテロ伝道所	涌井 康福 司祭

10月31日(日)

弘前昇天教会	遠藤 洋介 司祭
大館聖パウロ教会	渡部 拓 司祭

交換説教の教会暦（インテンション）については、各教会に配布されている日程表にて確認されるか、もしくは教役者におたずねください。新型コロナウイルスの感染状況によっては、予定が変更される場合があります。

常置委員会報告

(第10回・6月18日)

■報告事項 ◇主教報告・各教会の感染症対応について。

◇常置委員長報告・宣教協働区に関する北海道教区との今後の協働について。◇主事会議報告・「2022年宣教協議会」アンケート回答素案について。

■主教諮問事項 ◇人事公示について、適当と答申。

■協議事項 ◇規則・規程グループのメンバー追加について。◇第105（定期）教区会について、11月23日に行うことを決議。会場は盛岡を予定。◇宣教協働区についての共通理解と主教選挙に関する今後の進め方について。先の臨時教区会でのプレゼンテーションを各教会で再実施、その後アンケートをとり、その結果を踏まえて改めて「宣教130周年記念礼拝」にあわせ研修会を行う方向で調整に入ることを決議。◇規則・規程グループから諮問のあった「教区会細則」「教区事務所職員就業規則」改定について回答。

オンラインフォーラム 「原発はやめようよ」参加報告

東日本大震災被災者支援プロジェクトメンバー
マリア・ヨルベ 八木 陽子

「原発のない世界を求める週間（6月6日～12日）」に合わせ、正義と平和委員会の原発問題プロジェクト主催により、前半（5月30日～6月1日）、後半（6月6日～6月7日）の日程でオンラインフォーラム「原発はやめようよ」が開催されました。参加者は各教区から2名、正義と平和委員会委員、原発問題プロジェクト委員、青年、管区総主事、宣教主事の総勢35名でした。

1日目は武藤謙一主座主教様からのメッセージをいただいた開会礼拝に続いて、会津放射能情報センター代表の片岡輝美さんから「考えること悩むことは、いのちに向き合うこと」福島からのメッセージ」と題しての講演がありました。国や県の説明や決定、報道されることの偏りや矛盾のひとつひとつに真摯に向き合い、正しい情報を収集して根拠を明確にし、恐れずに発信し動き続けることを震災から10年を経た現在までずっと貫いていらつしやる方でした。自分の身を守るということももちろん重要なことですが、私たちは大人として子どもたちに対しての責任があるということを強く感じました。知ろうとしなければ、知ることのできないことが多く、知ることでも恐れを感じることも多いのですが、問題を我がごととして捉えず先送りしてしまっていないかと改めて考えさせられました。

2日目は以降は、原発問題プロジェクト委員の尾関敏明さんから、課題ごとに6つの項目に分けて発題がありました。課題は「教会とエネルギー」「核のゴミ」「原発事故」「再生可能エネルギー」「私たちの責任」「私たちの教会・教会での働き」の6つでした。オンラインで画面共有しながらでしたので、パワーポイントでの資料が見やすく音声も聞き取り

やすかったですと感じました。原子力の平和利用という名目で設置されていた原発が他国への抑止力としての働きを持つこと、原発の運転によって生み出される核のゴミ（放射性廃棄物）が安全なレベルに低下するのに10万年もかかること、その処分方法はまだ未決定だということ、先進国のエネルギー政策は再生可能エネルギーにシフトしているが日本はそうではないことなど、分かりやすく丁寧に解説してくださり、今私たちが抱えている問題がいかに大きく重要なものであるかよくわかりました。

今回のフォーラムでは話し合いの時間が多くあり、ひとつの課題が提示される度に小グループに分かれ話し合いしました。難しい課題ばかりでしたが、グループの方々との話し合いから、問題意識の持ち方や視野を広く持つことの大切さを学びました。東京教区のパワーシフトキャンペーン（各教会・礼拝堂の電力を、自然エネルギー、再生可能エネルギーへとシフトすることを目指したもの）、京都教区の聖光幼稚園のおひさまプロジェクト（太陽光パネルと蓄電池の設置）など他教区での取り組みも知ることができ、大変刺激を受けました。

今回このフォーラムに参加させていただき、私は原発やエネルギー、付随する政治的な問題についてあまりにも無知であったこと知り、また、まして、キリスト者としての視点は、恥ずかしながらもほとんど持っていなかったことに気がきました。具体的に何から始めればよいのか、すぐに答えが見つかるものではないのかもしれませんが、参加者の中から、まずはネットワーク作りから始めていこうという意見や、今後も情報交換や話し合いができる場が必要だとの意見がありました。管区原発問題プロジェクトでは、今後もホームページなどを通して様々な情報を発信してくださるそうです。「いのちと核エネルギーは共存できない」を中心に据え、私ひとりの力は微力過ぎても、仲間と力を合わせて一歩でも前へ進みたいと強く思いました。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

東日本大震災10周年記念事業として「震災証言集」の発行を計画しましたが、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置発出の影響によりメンバーが集まらず、発行が遅れています。解除された6月24日によりやく対面で編集会議を開くことができ、編集に取り掛かれました。8月下旬には発行して全国の教会、関係者に配布する予定です。

同じように休止していた地域支援活動も再開されました。お買い物支援は6月17日から6～7名の利用で毎週木曜日に行われます。広畑お茶会は6月25日から月1回、水曜喫茶は7月14日から月2回行われます。ただし両プログラムは飲食なしで、お土産お持ち帰りスタイルです。

本プロジェクトでは、10年を過ぎた今後の被災地・被災者のニーズはどのように変化していくか、またそれに対応しプロジェクトがどのように対応していくのか、いけるのかをテーマに協議しています。

「宣教活動推進に向けての新たな展望」 ～宣教強化資金運用グループより～

宣教強化資金運用グループ・リーダー パウロ 島守 信昭

6月12日(土)、宣教強化資金運用グループの今年度第1回目の会議を開催しました。新型コロナウイルス感染症が広がる中、盛岡での会場を変更し、オンラインでメンバーを繋いで行いました。新加入

の八木正言司祭をお迎えし、メンバー7人全員参加。また赤坂有司常置委員長と浅原和裕教区事務所主事のお二人にも参加していただきました。

①運用状況の報告、②融資案件に関する件、③グループの今後の課題についてが、主な議題でした。

宣教強化資金の財源は、「教区施設設備資金」「聖マリヤ資金」「白河資金」等を統合した資金の他、教区諸事業による収益金、寄付金及び援助金など(「宣教強化資金運用規程第3条財源」によ

る)信徒の皆さまからの尊い献金から成り立っています。2021年4月末の運用状況は、手元資金期末残高6400万円、融資残高1億3500万円、資金合計1億9900万円です。資金の68%が融資できる資金は6400万円しか手元にありません。

これまでの融資申請は建物や設備の修復や改築、建物附属の駐車場整備工事費、また什器備品の購入など建物に対しての申請がほとんどでした。

2021年度前期の融資申請はありませんでしたが、各教会や幼稚園では来季以降、改築や新築の予定があるとの情報を得ています。今期末の手元資金で新規融資申請に対応できるかどうか資金計画を練らねばなりません。

融資金返済は10年間の分割返済を限度としていますが、現在10年以上の長期返済計画を有する教会が複数あります。宣教強化資金は教区の資金として皆で利用していくものであり、色々な事情があるのかと思います。次の借り手の為や、その教会の未来の信徒

に負担を負わせないためにも、出来るだけ早く返済を完了させて頂きたいと願っています。資金は循環させてこそ価値は何倍にも膨れていくと思います。

昨年度は宣教強化資金の趣旨をご理解いただき、当年度返済計画より多く返済をして頂いた教会もありました。教区会でも報告させて頂きましたが、教区全体の活性化のためにもご配慮のほどよろしく願っています。

新しい取り組みの提案も出されました。前述の通り現在

は建物関係の融資申請に対し、審査及び審議を主な活動内容としていますが、「各プロジェクトやグループの宣教活動を活発にするために、広く情報を集めその活動に対し資金援助をする」という提案です。

しかし、現状の資金から援助を実行すると資金が枯渇する恐れがありますので、新たに教区から援助予算を組んで頂くことが必要となってきます。この案を実現するためには当グループだけではできません。他のグループと協働して、宣教を推進するためのアイデ

アをアンケート等によって収集し、宣教活動推進のための資金援助の実現に向け議論して参りたいと思っています。次回会議は9月25日に盛岡での開催を予定しています。今回はオンラインでの会議となりましたが、新型コロナウイルス感染症が収束しメンバー全員が一堂に会して会議ができることを願っています。

常日頃、宣教強化資金運用グループの活動に対しご理解とご協力を賜りありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。

公 示

救主降生2021年6月18日
日本聖公会東北教区主教
主教 ヨハネ 吉田 雅人^④

下記の人事異動を発令します。

司祭 ピリポ 越山 健蔵
2021年9月30日付
仙台基督教会における囑託の任を解く。
磯山聖ヨハネ教会ならびに室根聖ナタナエル教会における礼拝協力の任を解く。

十和田湖畔ヴァイアル山荘 改築のための募金

募金口座
ゆうちょ銀行 郵便振替口座
口座番号: 02230-1-128968
加入者名: 東北教区十和田湖畔施設活用グループ

皆様のご協力をお願いいたします。



各教会にお送りしている振込用紙をご利用ください。

「第2回ハラスメント防止・対策研修会に参加して」

ハラスメント防止・対策委員会メンバー
クリスティーナ 多田 愛

去る6月5日(土)に、オンラインで開催された、管区主催のハラスメント防止・対策研修会「ハラスメントへの包括的支援／自分の加害性・被害性に向き合う」へ参加しました。2回目の研修会ということでしたが、1回目に参加してなかった私は、開始直前まで「ハラスメントに何も知見の無い専業主婦の自分が、自宅のパソコン画面の前で3時間の研修会に最後までついていくのか……」と正直心配しておりました。

ですがそれは全くの杞憂に終わりました。というのも、オンラインながら、約40名の参加者がグループに分かれて意見交換をする時間があり、一部双方向な形式が取り入れられたのと、

何より講師の金香百合さんが、平易な言葉で多くの具体例やお手製の図を用いながら、時折笑いも交えてお話しくださったので、とても分かりやすかったですし、途中で集中力が途切れることもなく研修に臨めたからでした。

講師のお話の内容をごくごく簡単に要約させていただきますと、ハラスメントが発生する背景を、加害者が加害者となってしまう要因、また被害者が被害者となりがちなる要因からひも解くことで、加害者と被害者それぞれへの寄り添い方や支援者のあり方を提示する、というものでした。

ハラスメントの定義は、「相手の望まない言動によって相手の心身を傷つけること」であり、ハラスメントとは相手の人間的価値を傷つける暴力行為です。今回の研修では、その暴力が発生する原因を「自尊心感情(＝自分を大切に肯定的に思え、人とのつながりの中では自己共に尊重できる感情のこと)」が低いことにあるとしていて、その「自尊心感情」は、身体の栄養と共に、「心の栄養(＝安全・安心に」

を感じ、大切にされている実感があり、承認欲求を満たされ、信頼・感謝をされ、あるがまま受容してもらうこと(等)」をも満たされることによって、生まれ高まるものなのだという説明に、「なるほど！」と納得させられました。しかしその一方で、人が暴力的になってしまいう「自尊心感情が低い状態」というのは、身近な人々(特に親)の影響やおかれた環境(例えば生い立ち)によって形成されるものだというのが、大抵は本人の意思とは無関係だから、防ぎようがないじゃないかと、ハラスメント問題の根深さも改めて思い知ることとなりました。

現在、東北教区でもハラスメントに関する啓発活動、被害を相談できる窓口の設置やハラスメント事案が発生した場合に対応するための仕組み作りを、専門家にアドバイスを乞いながら進めている最中です。皆で正しい理解を共有し、誰もが安心して信仰生活を送ることができるようになるよう、皆さんに関心を寄せていたきたいです。

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、
その意味を調べてみました。

(第17回 祭壇布)

今回は「聖卓・祭壇」にかけられている布についてです。

例えば

主教座聖堂(仙台基督教会)の聖卓には三枚の布が掛けられています。一番上は綿のえんじ色で、その下は白麻布、一番下、聖卓の上には白布です。

一番上の布は「ダストカバー」または「プロテクター」と言います。「塵よけ布」で、

聖卓やその上に掛けられている白麻布に埃がかかることを防ぐためのものです。色の指定はなく、緑やグレーのものもあります。聖餐式の際にはこの布を外します。



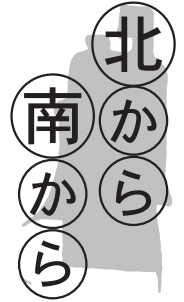
(祭壇布・仙台基督教会)

さて、これらの布が年に一度だけ取り除かれるのをご存知ですか。聖木曜日の聖餐式終了後から聖土曜日の礼拝の前までの間、布を外して聖卓(祭壇)を剥き出しにします。主

の十字架の死を黙想するためです。(教区主教)

聖卓の幅と同じで、聖卓の両

脇から40cm程度垂らします。聖卓上面にあたる所には祭壇と同じく五つの十字架が刺繍されています。この布は主が葬られた時に御体を包んだ、亜麻布を象徴しているのです。祭壇の場合は、伝統的にフェア・リネン・クロスの下に「フロントアル」と呼ばれる、教会暦の色にあわせた飾布を祭壇の前につけ、その下には祭壇の湿気を防ぎ、万一聖血をこぼしても祭壇までとどくことを防ぐためにワックスを塗った「シア・クロス(蠅引き麻布)」を敷きました。しかし、聖卓の場合には「フェア・リネン・クロス」だけを敷くことが多いようです。主教座聖堂では、シア・クロス代わりに、綿布を敷いています。



青森聖アンデレ教会

司祭様玄関前に、目を見張る色の花が咲きました。

青森市もコロナの感染状況が一時ステージ3が4個になり、主日礼拝が中止になりました。再開しましたが、継続できることを信徒一同祈るばかりです。

建物も年数を重ねると、ボイラーが壊れたり礼拝堂や内部の電球が切れたりエアコン設置が急務になったり、数々の修理が必要になりました。長く走り続けるためには、様々な痛みを緩和しながら大切に信仰の眼差しを注いでいきたいです。

室根聖ナタナエル教会

室根聖ナタナエル教会は、地元唯一の信徒相澤茂さんが天に召され、今後教会の管理運営についてどうするか、6月20日信徒関係者が一堂に会して堅信受領者総会が開催されました。室根に対しての熱

い思いが感じられ、先達者の信仰が脈々と息づいていることが伝わってきました。

これからは教区のご支援を頂きながら、新たな室根聖ナタナエル教会宣教を模索してまいります。

能代キリスト教会

5月下旬、能代市内中心部飲食店からコロナ感染者が出た。急遽2週間の礼拝を停止し6月に入り再開した。

永い間新しい信徒が与えられていなかったが、今年に入り、ルーマニア出身の母子が顔を見せるようになった。早くも家族になったような雰囲気になっていく。二人を紹介してくれたのはかつての当教会幼稚園の卒園生で看護士を育成してきた能代文化学院の丹波望氏です。学院を閉じた機に電子オルガンを寄贈され、6月13日試聴会があった。

聖ペテロ伝道所

しばらく続いていたコロナ禍による礼拝休止も6月20日から公開となりました。

この時期は例年、伝道所の敷地全面に色取り取りの草花

が生長しますが、今年はその一角にたくさんのクレイターができていて、周囲と異なる光景です。小鳥の砂浴びの跡でした。自然の営みの不思議さに感無量です。空の鳥は小さくてもお恵みくださる神様がおられて、砂浴びができる喜びをくださったのだと思います。

米沢聖ヨハネ教会

教会の庭に背丈2メートルほどのタチアオイが梅雨入りの頃になると咲き始め、夏の到来を感じさせてくれます。ピンクや濃い紫色の花はハイビスカスにも似て、これから毎日新しい花を咲き続けてくれます。

また、礼拝堂の軒下に鳥が巣を作り、オルガンの音と共に囀り、まるで賛美しているかのようです。時折、オルガニストの頭上から何やら藁や羽がフワフワと落ちてきて、一緒に礼拝しているのだろうか。

磯山聖ヨハネ教会

「まさか」の出来事でした。2月13日午後11時8分、震度

6強の福島県沖地震は《磯山》も直撃。

翌早朝「礼拝堂の天井や壁には亀裂、サッシは歪んで網戸が飛出、照明は落下、聖卓は一部欠落、オルガンは3メートル走ってベンチで制止。台所の食器が棚から飛出し散乱、風呂場は外壁損傷、テブルは横倒し……でも津波がなかったのだ」との第一報でした。

そろそろ半年。皆様の御支えのお蔭で修復も順調です。感謝

◇◇◇◇◇
8月1日は「日本聖公会青年活動のための日」です。宣教の器となる青年たちの学びと活動を覚えて祈り、献金をお献げください。

洗礼おめでとう

ヨセフ 大槻 洽威
(6月27日・フランシス)

バルナバ 小林 弘幸
(6月27日・郡山)

初臨餐おめでとう

ヨセフ 大槻 洽威
(6月27日・フランシス)

堅信おめでとう

バルナバ 小林 弘幸
(6月27日・郡山)

永遠の平安

ハンナ 中屋敷 廣子
(6月12日・盛岡)

8月逝去者記念聖餐式

8月3日(火) 午前10時
於 主教座聖堂
司式 吉田 雅人 主教
説教 李 贊熙 司祭

伝道師 ルツ星 安代

1955年8月5日逝去

主教 サムエル 今井 正道

1983年8月12日逝去

司祭 John Cole McKim

1952年8月26日逝去

司祭 パウロ 関屋 正彦

1994年8月27日逝去

司祭 George C. L. Ross

2020年8月29日逝去

